レッスン：SPA.No.88

テーマ：現在のパーソナリティーの3つのセンターとシンボル

SPA88/KE001/F8/02/

私の姉妹、兄弟たち、

スピリット、光、火の子供達よ。私たちは常に主、絶対、主の聖性に抱かれています。

前回のレッスンでは14芒星の内側のポイントについて少し話しました。これらの内側のポイントは、人間がこの世界への初めての瞬間から2番目のサイクルをマスターするまでに全ての人間が経なければならない実際の道を特定している、と述べました。

　　そのレッスンで述べたように、現在のパーソナリティーがこの実存の世界に初めて現れたとき（つまりこの物質界に）、現在のパーソナリティーとしての人間はこのシンボルの中心でほんの点にすぎません。

実際、点であり、半径や円になっていません。しかしそれ以来、人間の意識の動きの結果として、その点から小さな輝きが生じ、徐々に円が形成され、その円がだんだん大きくなります。それは人間が経てきた経験を意味します。

　時間・空間内における意識の動きが人間に経験を与え、徐々に人間は潜在能力のサイクルの最初のサイクルをマスターするようになります。

それは円が14芒星の点と内側のポイントの中間あたりに到達する時にそれが生じます。そのポジションから以降、人間は2番目のサイクルに入り、それ以降も円は大きくなっていき、円が内側の全てのポイントに触れるまで、大きくなっていきます。そのとき、人間は2番目のサイクルをマスターします。

勿論、2番目のサイクルをマスターするまで、人間は潜在意識的にあらゆる経験をしていきます。

円は内側のポイントに触れた時から、人間は意識的意識のセルフエピグノシスを現します。そしてそれが生じると、人間は「生」Life からより多くを現すようになり、それまでよりも良い判断ができるようになります。

　　さて、この時から人間が3番目のサイクルにいる間、たんに良い判断ができるだけでなく、何であれ自分が表現するものがエゴの様々な側面を通過するのがわかるようになります。

そしてそれらのエゴの側面について、人間はまだコントロールするのではなく、まず最初はたくさんの知識が得られるようになり、後にはそれらのエゴを取り除くために必要な手段を取るようになります。

しかし、前にも述べたように、エゴの最高のレベルを現す時がやってきます。なぜでしょうか？それが生じるのは必要なのでしょうか？確かにそれは必要です。それによって人間がそれらに関する知識を理解できるようになるために。そして次第に人間は、非常に高いレベルのエゴを現すにもかかわらず、エゴの判断を通すことなく全てを通過できるようになります。

　ですから3番目のサイクルで、内側のポイントから外側へと移動していきます。そしてそれは前に説明したように、人間がこのシンボルを頭の上に置くようになることを意味します。そうすることによって、人間がより意識的に生きるようになることを意味します。

　そして動きはさらに続き、円の円周がだいたい内側のポイントと外側のポイントの真ん中付近に到達するようになります。それに関しては将来お話しします。特にエクササイズをする時に。

Page2

　さて3番目のサイクルをマスターすると、火の洗礼の後（それは次のサイクルで生じますが）エゴの様々な側面を取り除き始めることができるようになります。

そして勿論4番目のサイクルは続行していますが、円はさらに大きくなり、円周が外側のポイントに触れるようになります。そしてポイントは残りますが、円がポイントを含むようになります。しかしそれはもはやポイントではなく、円に含まれます。この円は4番目のサイクルのマスターのみならず、同時に5番目のサイクルの完了となります。そして自己実現した現在のパーソナリティーとなるのです。

　　さて、14芒星が円のなかに入る、とはどういう意味でしょうか？14芒星をマスターした中にいるそのパーソナリティーは、プロセスを経ている他の同胞の人間たち全てを助けることができることを意味します。

自己実現した人間として、その人はある程度まで他の人間たちの痛みを軽減することができるのです。

それは14芒星によって定められているプロセスのなかにいる他の全ての人間たちを拘束している法則、Lawと共同で働くことを意味します。

　さて、なぜこのシンボルを太陽神軽叢の所に置くのでしょうか？前に行ったエクササイズのなかで、それを太陽神経叢、ヘソの部分に置きました。なぜでしょうか？14芒星とこのセンターとの関係は何でしょうか？このセンターは肉体の健康に関わっています。しかしまた、胎芽はこのセンターから育ちます。胎芽が生まれ、成長します。また胎芽に形が与えられるのもこのセンターからです。

　なぜ形なのでしょうか？14芒星は形を提供するのでしょうか？違います。しかし同時に、別のシンボルがあります。五芒星のシンボルです。ですからこのセンターには2つのシンボルがあります。五芒星と14芒星です。

五芒星は形を与え、14芒星は人間が最終的に再びその真の本質を現すようになるために経験しなければならないことを提供します。ですから2つのシンボルがこの同じセンターにあります。

　　さて、もう一つのシンボルはハートのセンターにあり、それは六芒星です。六芒星は下向きと上向きの2つの三角形からできています。最初の三角形はイエスキリスト・ロゴス、天上人を意味し、もう一つ、上向きの三角形は自己実現に到達した人間を示しています。

今キリスト意識を現している人は、転生のサイクルにとどまっている間はそうしないかもしれませんが、しかし自己実現した現在のパーソナリティーを通して主による奉仕が必要になる時にはそれを行うでしょう。そして霊的ヒーリングという現象があり、また不可視のヘルパーの仕事があります。実際には、それらの助けを与えるのは主なのです。

　ですから太陽神経叢には2つのシンボルがあり、ハートにはもう一つのシンボルがあります。そして頭にさらにもう一つのセンターがあります。頭にあるシンボルは何でしょうか？頭にはアウタルキーにある絶対存在に対応するシンボルがあります。それは三角形であり、頭はその三角形の中に入っています。

　ですから、物質のバイブレーション内にある現在のパーソナリティーを構成する3つのセンターがあります。

しかし、現れとしての現在のパーソナリティーは（＊サイコノエティカル体）3つのセンターではなく、2つのセンターだけです。しかし、このバイブレーション内にいる現在のパーソナリティーは肉体を使う必要があり、それゆえに物質界においては現在のパーソナリティーを構成する上で3つのセンターがあるのです。

　さて各サイクルのための14芒星について述べました。1番目のサイクルでは人間は本能的に異なったステーションを経る必要があります。なぜなら、説明したように、人間はそのとき本能的意識のセルフエピグノシスを現しているからです。

そしてそれらは実際内側のポイントの影なのです。内側のポイントはまだ現在のパーソナリティーの頭に触れておらず、そこにあるのは内側のポイントの影にすぎません。そして1番目のサイクルをマスターする方向に近づいていくと、影はどんどん小さくなり、そして次のサイクルへと続きます。潜在意識的意識のセルフエピグノシスを現すサイクルで、そこではまだ影です。そしてこのシンボルが最愛のお方の頭に置かれのと全く同じように、頭の上に置かれた時はじめて、それは「現実」となるのです。

　ですから、各サイクルのための14芒星があり、しかし最後のサイクル、つまり5番目のサイクルにはありません。ですから、現在のパーソナリティーとしての人間は56のステーションがあります（＊14×4＝56）。それに5番目のサイクルがありますが、それはステーションではありませんが、自動的に加わったステップです。

　さて、これらすべてのステーション、特に14という数と現在のパーソナリティーが経験しなければならない様々な諸世界との関係は何でしょうか？つまりサイコノエティカル界ですが。

なぜなら、現在のパーソナリティーはこれらサイコノエティカル界の全ての層と亜層を通過していくからです。

その人はそれらのレベル内で自分自身の環境を創造するのです。それらについては過去に説明してきました。それらの数との関係は何でしょうか？

ヤコブの梯子の14のステップとの関係は何でしょうか？それらは相互に関係しているのでしょうか？答えはイエスです。非常に大きな関係があり、相互に関係しています。しかし、それについて分析するには、エクササイズを伴う必要があり、近い将来にそれをします。ですから現在のパーソナリティーを構成する3つのセンターがあります。

レッスン　SPA88　エクササイズ1

目を閉じて静かに座り、心を騒がせるもの全てを解き放ちます…純白のなかに自分をイメージし、自分の形の境界を感じます、同時に真っ白な五芒星のなかで守られている自分を見ます…あなたはこの状態のなかでくつろいでいます…それでは太陽神経叢に14芒星を活性化します、そして銀色の輝く光がそのセンターから放射されているのを見ます。大きさは小さなコインぐらいです。ちょうどヘソをカバーしています、非常に強力で明るい銀色の光が輝いています…

　徐々にその14芒星がどんどん大きくなっていきますが、肉体を超えることはありません、外側のポイントが肉体の境界の外に出ることはありません、そしてその大きさにとどまっています…非常に明るく輝いています…

　さて同じセンターから別の色の光りが外に放たれているのが見えます…それは純白の光で、それは小さな五芒星から来ています…それはとても小さなもので、初めは小さなコインの大きさですが、徐々に五芒星は大きくなり、最後には五芒星のポイント、先が14芒星の想像上の内側のポイントの円周に触れるまで大きくなりますが、それ以上には大きくなりません。

　ですから、このセンターでは14芒星が非常に明るい銀色に輝き、五芒星が純白の明るい光を放っています…純白の小さな五芒星はあなたを包んで守る大きな五芒星と全く同じものです。

　さて、あなたのエーテルのハートから、あなたの胸のセンターからもう一つの光が徐々に外側に放たれるのを見ます、それは六芒星を形成し、初めはホワイトピンクの色ですが、徐々に金色の光もあることがわかります、金色の光が形を形成しています。外側の六芒星の形を作っています。そこには2つの色があり、六芒星の内側はホワイトピンクで、六芒星の形をつくる外側は金色です。

Page4

最初はそれは小さなコインの大きさですが、徐々に大きくなり、外側のポイントが肉体の縁に触れるまでになりますが、肉体の外に出ることはありません。それは胸の境界の内側にとどまっています。

　さて、あなたの鼻の一番下あたりから外側にもう一つの光が放たれています。それは頭のセンターから来ている金色の光です。純粋でとても強力な金色で、正三角形の形をしていて、最初は小さなコインの大きさですが、徐々に大きくなり、最後には頭をすっぽり覆うまでになり、底辺はあなたの両肩にあります。

　ですから、あなたの頭をその光で包み込む金色の三角形があり、胸のセンターには六芒星があり、それはホワイトピンクで縁が金色に輝いています…そして太陽神経叢では銀色に輝く14芒星があり、そこには同時に純白の五芒星もあります…しかしまたそのセンターから放射されているもう一つの光があります…それはホワイトブルーの光で、それら3つのセンターのバランスの結果として輝いています。

　　ですから太陽神軽叢には3つの色の光があり、銀色、純白、そしてホワイトブルーです…3つの光が混じり合うことなくお互いの内側、外側にあります…それを見てください、そして勿論、それらのセンター以外の身体の部分は純白であり、同時に純白の五芒星によって守られています。

あなたの現在のパーソナリティー全体の健康を願います。私たちは常に主、絶対、主の聖性に包まれています。

質問

Ｑ：最初の2つのセンターのシンボルはすべて身体の内側にあり、3番目の三角形は外側に出ているということですね。

K:そうです。三角形が頭をカバーしています。それは純粋にロゴス的であり、それは人間の最内奥の本質を述べています。最内奥の本質はどんな形も、何も必要ありません。他の全てのシンボル、形などは実存の諸世界のためであり、「生それ自体」のためではありません。このシンボルでさえ、実存の諸世界にいる人間のためのものです。「生」は何も必要としません。この諸宇宙、コスモスはこれら実存の諸世界のバイブレーションのなかで自らを表現する人間のために築かれています。さもなければ、創造界などなかったことでしょう。もし人間が存在するのをやめれば、これら全ての創造界も存在しなくなるでしょう。

　ですから、諸宇宙内には常に「生」があります。そして物質界には人間がいます。もし物質界に人間がいなければ、諸宇宙はどんな目的に奉仕することもなくなります。

Q:14芒星は五芒星の中にあります。それら2つの間にはロゴス的、または聖霊的つながりがあるのでしょうか？

K:　形はロゴス、天上人から提供されますが、それはただ提供されるだけです。身体を築くプロセスは純粋に聖霊的です。しかし、もちろん14芒星は「生それ自体」、「絶対生」によって提供されます。そして「絶対生」と言うとき、それは汎宇宙的キリストロゴスを意味します。なぜなら、汎宇宙的キリストロゴスはそれ自体の現れにおける絶対存在だからです。イエスキリスト・ロゴスと言う時、それは現れにおける絶対存在の一部です。それはあらゆるものがその上に築かれる元型を宣言する形で、それ自身を表現します。そして同時にそれは海であり、全てに生命を与え、その海からモナド・セルフとして生命が表現されるのです。そしてモナド・セルフと言う時、それは魂のセルフエピグノシスとしての個別のスパークを意味し、あるいは様々なアークエンジェルのオーダーを通じて表現されるもの全てを意味します。それについては前に、存在の諸世界のなかの4つの小さな三角形について分析したときに説明しました。一番上から見て2番目の長方形のなかのものです。

Page5

Q:3番目のサイクルが完了した時に、14芒星が移動して六芒星と重なるということがあるのでしょうか？

K:それはありません。五芒星と14芒星は動きません。それらは一緒にいます。なぜなら、14芒星は肉体の誕生のシンボルだからであり、全ての経験は肉体を持つことによって可能になるからです。ゴルゴダの様々なステーションを経るための手段、つまり経験するための手段は肉体です。前のレッスンで述べたように、各ステーションは人間が「生」を以前よりもより多く現すステートを示しています。無知の境界は常により少なくなっていくのです。

Q:私は14芒星が動かないのを理解できません。それではどういう意味であなたは現在のパーソナリティーがそれを頭の上に置くと言われるのですか？

K:なぜなら、

**人間がいわゆる意識的意識のセルフエピグノシスを現し始めると、たくさんの知識が頭を通じてやってきます。その知識とは勿論「生」のスパークからであり、前に述べたように非常に明確な判断ができるようになります。そして徐々にエゴの全ての側面を現在のパーソナリティーから隠すことができなくなります。**

そして現在のパーソナリティーは時間・空間の意味内におけるその人の動きの結果として、あらゆる経験をより意識的に経験するようになります。

　さて、すると痛みもより大きくなるのでしょうか？どう思いますか？大きくなるでしょうか？ノーです。なぜなら、現在のパーソナリティーは自分の痛みを増大するような仕方で自分自身を現わさなくなるからです。

　　現在のパーソナリティーは原因・結果の法則に反するようなことをあまりしなくなります。ですから、痛みは強くなりません。なぜなら、現在のパーソナリティーはより良い判断をし、「生それ自体」からより多くを現すようになるからです。

実際、痛みを創造するような経験は少なくなります。もし以前と同じようなことをするなら、確かに痛みはより多くなりますが、しかし実際には昨日行ったことをもはやしなくなるのです。そのようになっています。なぜなら、もしそうでなければ、考えてみてください、いかにして同胞の人間の痛みを背負うことができるようになるでしょうか？もしもっと痛みを感じることになるのなら。

Q:　これらのステーションには何らかの名前があるのですか？各サイクルには14のステーションがあり、各ステーションには、それを完了して次のステーションのサイクルに移行するための何か総合的なものがあるはずだからです。

K:はい、各ステーションには名前があります。しかし名前があるなしにかかわらず、それはヤコブの梯子には対応しません。なぜならヤコブの梯子は、現在のパーソナリティーが部屋から出る時に昇るからです。ガブリエルの監督下にある門を通過する時です。そのとき初めて現在のパーソナリティーは様々なアークエンジェルのオーダーに親しむようになり、自分のアークエンジェル的な状態を現すべくワークするようになるのです。ですから、様々なステーションがありますが、それらに名前はありません。名前の問題ではありません。ただ学ぶために何らかの数、バイブレーションをそれに与え、それも名前と言えるかもしれませんが、それは問題ではありません。いかなる「法則」にせよ、法則によって与えられる名前はありません。

Q:それらは同じ意味の他のレベルと関係しているのでしょうか？各サイクルには14のステーションがあり、今2番目のサイクルの14のステーションがあります。それらは同じ意味でもより高いレベルなのでしょうか？あるいは完全に異なっているのでしょうか？1番目のサイクルにも14のステーションがあるわけですが…。

K:まったく同じです。あなたの質問の意味はわかりました。なぜなら、最初の、または2番目のサイクルの最初のステップ、それらは14芒星の内側の14の各ポイントの影としての投射だからです。それらは影が投射されたものであり、異なったものではありません。しかし、私たちの意識が内側のポイントに触れた時はじめて、現在のパーソナリティーにとって真に触れることができるのです。

　さて、意識と、この頭と通じるもの、それは意識、「生」です。それがポイントです。より気づきが高まると言う時、それは意識が「生それ自体」からより多くを現すからです。その結果、私たちの意識が拡大するのです。そして私達の意識は14芒星をまとうようになるのです。

Q:それらのポイントは頭の上で印象を形成しはじめる、と言いました。しかし、それはノエティカル体で働くということでしょうか？なぜなら、意識が純粋になればなるほど、よりロゴス的になり、同調に到達するようになると、感覚は除去されるからです。

K:　しかし肉体は私たちが知っている五感を使うでしょう。それがストップすることはありません。肉体がある限り感覚もあります。肉体はこの世界の五感なのです。他の2つの体の現れは5つの真の感覚を使いますが、肉体はちがいます。

肉体は様々なステーションを通過する結果として、経験しなければならないことを何であれ経験します。それは肉体です。しかし、その体を守るもの、それは痛みを伴う経験を経るための気づきの上昇です。

Q:しかし、それは実際に痛みを経験するのは肉体、あるいは思考・行動の仕方としてのパーソナリティーですよね。

K:そうです。しかし、その結果は肉体にきます。気づきのレベルは原因です。

Q:なぜなら、サイコノエティカルな痛みは肉体的痛みよりも強い、と言っているからですか？

K:なぜならそのパーソナリティーが肉体を使っているからです。

肉体を去れば、痛みはありません。そうでなければ、死ぬときに、痛みを伴うはずですが、そうではありません！

もし健康な良い肉体を去る時には、いかなる痛みもありません。

ですから、様々な状態の痛みを経験するのは肉体を使っている時だけです。私たちはそれを解釈するのです。

Q:しかし、他のバイブレーションにおいては、そこでは肉体は幻想であり、パーソナリティーは自分自身の天国にすんでいます。そこでは痛みという感覚はないのですか？

K:彼らはそこではいかなる痛みも経験しません。その理由は、そのステートは新しく転生するための準備だからです。さもなければ、パーソナリティーは自分の気づきのレベルの結果として何であれ経験しなければならなくなるでしょう。そうであれば、新たな転生のための準備はどこでするのでしょうか？準備できません。

新しい現在のパーソナリティーは簡単に過去の転生の記憶を思い出すことになります。パーソナリティーはそれ以前に自分を悩ませたいろいろな問題を背後に残して、心を静めるために、準備としてそのようなステートを経る必要があります。つまり自分自身の天国を生きるのです。それによって過去の記憶を引きずることなく、新たな転生を始めることが可能となるのです。そのような仕組みになっています。

Q:しかし、そのパーソナリティーにとっての天国が悪を行うことだとしたらどうなるのですか？

K:思い出してください。悪を行う人間は病院に送られると言いました。彼らはガイダンスの下に、守護のしたに置かれるのです。それが不可視のヘルパーの仕事です。

Q:そしてガイダンスとはそれらの記憶を押し込める、あるいは善悪に関するその人の理解を変えるということですか？

K:「癖」を変えるように助けます。その結果、その人が以前は好んで行っていたことをしなくなるようにです。つまり習慣、癖を変えるということです。だからといって気づきの上昇への助けになるということではありません。違います。単にそれまでその人が好んで行っていた習慣が変わるように助けるということです。それはいわゆる浄罪と呼ばれるものです。

しかし、気づきの上昇は肉体を持つこの世界で行われる必要があります。それによって結果を体験できるようにです。それゆえに前に述べたように、肉体を有する不可視のヘルパーがいるのです。肉体があるがゆえに、他の同胞に対する痛みの軽減が、より効果的にできるのです。

　勿論、他の痛みを軽減するための最大の体とは主の体です。それはこの諸宇宙にある全ての人間全体の体です。

Q:以前に「創造のセル」に関するエクササイズを自分たちの身体において行いました。三角形、金色の光、そして銀色の光がありました。それは14芒星と関係あるのですか、それとも全く別のことですか？

K:全く関係ありません。それは創造のセル、創造の元型を自分たちの身体に置いて行ったものですが、それはまったく異なったエクササイズです。14芒星は誕生のシンボル、肉体をもって誕生し、経験を経ていくシンボルです。

人間は前もって決められたステーションを経験する必要があり、それらすべてのステーションは全ての人間にとって同じです。

　それは聖霊によって築かれた様々な層、亜層のようなものです。人間はそれらを経ていく必要があります。ただ一つの違いは、人間が通過していく時に、実際の創造、聖霊的創造を決して認識しないということです。なぜなら、人間はその創造界のなかで自分自身の創造を作るからです。

　しかし、ステーションについてはどうでしょうか？１つのステーションを通過するとき、全ての人間が同じ認識を示すでしょうか？答えはノーです。しかしステーションはそこにあり、特定のレベルの気づきがあります。しかし、その特定のレベル内において、そこにもまた無数のバイブレーションがあるのです。

　人間に提供されるそれら全てを人間が認識するでしょうか？しません。それを失っても、それを手にしても、それについて認識しません。

Q:　6芒星の色に関して何か意味があるのですか？

K:あります。2つの色ですが、ホワイトピンクは主の絶対愛を、金色は絶対存在としての主の現れを示しています。**なぜなら絶対存在は金色を放っているからです。**「生それ自体」全体の色です。それはロゴスの色です。ですからイエスキリスト・ロゴスの色はホワイトピンクと金色なのです。

これら全ての色は前にも述べたように、この世界、実存の諸世界だけのためのものです。もしあなたがアウタルキーに入れば、全ては全てのなかにあります。それは言葉では説明不可能なものであり、いかなる意味、同調でもってもそれを述べることはできません。

この実存の諸世界における最高のレベルの気づきをもってしても、そうなのです。「生」は金色で現され、それは火が生み出す色と非常に似ています。

しかしそれは火ではありません。木の板が燃える時の触媒的なもの、あるいは内側に赤がある何か、創造的なものの炎の色、それは金色です。例えば太陽の色です。天体の中心から来る溶岩の色、それは「生」が提供します。

Q:太陽に代表される金色、それとあなたが述べた「生」を意味する緑とはどう関係するのですか？

K:違います。それ（＊緑色）は「生それ自体」を示すのではなく、地から来るもの、実存するものを示します。地のエレメントから来るものです。勿論、同時に他のエレメントをも使いますが。特に水のエレメントを。

EREVNA SPAN0.88/KE01/F8/001/02